

令和元年度 第2回学校関係者評価報告書

鳥取県立鳥取養護学校

学校長 中家 岳史

評 価 日	令和2年2月21日（金）	
評 価 ・ 提 言		学校の所見・改善策等
1. 今年度の自己評価について （1）重点目標の達成状況について ○目標設定の際に数値化できるものとそうでないものがある。評価することを考えると、数値化できるものは数値化し、そうでないものは具体を明確に示しておくといよい。 ○保護者アンケートと教職員の評価にズレのある項目については、保護者のニーズを把握した上で、実践の取組とつなげていくといよい。 ○学校の取組のタイムリーな情報提供は、保護者にとっても福祉事業所にとっても共に児童生徒を育てていくうえでありがたい。目に見える形でこれからも発信してほしい。 ○分掌のスリム化は必要であり、来年度は合同で分掌を運営していく取組をするようだが、大きな集団になるほど一人一人の役割を明確にして進めていく必要がある。 2. 今年度の県立学校裁量予算による特色ある学校運営の状況について ○特になし 3. 取組改善のための提言（防災、感染症対策も含めて） ○防災食の備蓄については、保存期限があるので、避難訓練実施の際に教職員がそれを使って試し、新しいものに入れ替える取組をしている。また、児童生徒一人一人に合ったものは違うので、保護者の協力していきたい。 ○災害の時は、各家庭にゆだねられる。自宅エリアで非常用電源の把握が必要であり、福祉事業所等ではマップを作っている。とりよう災害マップを保護者等と一緒に作成してもよいと思う。 ○鳥取養護学校は、海が近く、関係施設が集まっているため、災害時には連携が取れる対策が必要である。合同の避難訓練などを実施し備えていくといよい。 ○今年度は厳しく評価しているが、先生方は子どもたちのことを考えて本当にがんばってくれている。		○各評価項目の目標に対する評価としては、おおむね「B」以上の評価となった。取組の結果が一定の成果としてあらわれている。 ○現状から目標設定する際、誰もがわかりやすく評価しやすい具体的な設定にしていく。 ○評価が「C」以下の目標については、委員の指摘等を踏まえ、来年度更なる取組を進めていくとともに各分掌の運営についても、役割を具体的に示すようにする。 ○児童生徒にとって安心して安全な学校であるためには、災害や感染症への備えや対策を整える必要がある。現状に満足することなく、あらゆる状況におけるシミュレーションをしながら、設備や体制を充実させていきたい。 ○委員からいただいた提言を参考に、今後も医療や福祉、就労など各関係機関との連携を図り、課題の解決や目標の実現に向け取り組んでいきたい。